

慈急総合病院

慈急総合病院（じきゅうそうごうびょういん）は、1893年に山梨県に設立された、かつて存在した大規模な総合病院である。地域コミュニティに基本的な医療サービスを提供する小規模な診療所としてスタートし、次第にその規模と名声を拡大した。しかし1989年に発覚した前代未聞のスキャンダルが原因で閉院に至った。

沿革

1. 創立と初期の歴史

1893年、地域の名士である藤二木近造によって設立された慈急総合病院は、富士吉田市の医療ニーズに応えるための診療所としてスタートした。最初は基本的な医療サービスと緊急治療を提供し、地域コミュニティに深く根差していた。

2. 発展と拡大

1930年代、藤二木英次が院長を継承し、病院は重要な医療施設へと成長した。彼の指導のもと、最新の医療機器が導入され、専門医の採用が進んだ。病院は地域の健康と福祉のための中心的な役割を果たすようになり、地域社会からの信頼を獲得した。

1950年代には、藤二木高弘が院長となり、病院は戦後の医療需要の増大に伴い、さらなる拡張と技術革新を遂げた。彼は最新の医療技術を積極的に取り入れ、高度な医療サービスの提供に努めた。

3. 転換期と内部問題の始まり

1960年代に藤二木千里が院長に就任すると、病院はさらなる医療革新を目指したが、この時期から問題が顕在化し始めた。千里は最新の医療技術を導入する一方で、その裏でリスクの高い治療法や非倫理的な医療実験を密に行っていた。これらの活動は、病院の信頼を徐々に損なう原因となった。

4. スキャンダルの発覚とその後

1980年代後半、慈急総合病院内での臓器売買や非倫理的な医療実験が明るみに出た。これらのスキャンダルは地域社会に大きな衝撃を与え、藤二木千里院長の不可解な死とともに病院の信頼を失墜させた。1989年、病院は閉院し、その後廃墟となった。この一連の事件は、医療界の倫理問題を浮き彫りにし、長年の議論を呼んでいる。当時の看護師、駒井殿子による告発手記が、事件の詳細を世に知らしめた重要な証拠となった。

- 1893年 - 藤二木近造（35）が設立。地域の名士であり、小さな診療所として開院。
- 1931年 - 藤二木英次（48）が院長に就任。病院を本格的な医療施設に拡張し、地域の信頼を獲得する。
- 1950年 - 藤二木高弘（59）が院長に就任。戦後の医療需要の増大に伴い、病院はさらに拡張。最新の医療機器を導入し、専門医の採用を進める。
- 1961年 - 藤二木千里（41）が院長に就任。革新的な医療技術の導入を図るが、裏で外科部長の中保市和弘と共に臓器売買を行う。またリスクの高い治療法を密かに研究。
- 1984年 - 藤二木律子（35）が副院長に就任。千里の娘として、父の研究に深く関与し、院内の不正に加担した。
- 1987年、病院内の大部屋で火災が発生。多くの患者が逃げ遅れ7名が死亡、29名が重軽傷を負った。
- 1988年、行方不明となっていた看護師の駒井殿子の遺体の一部と手記が発見される。多くの内部情報が公開されることに。
- 1989年 - 藤二木千里（69）が不審死。臓器売買の証拠も次々に見つかる。病院はスキャンダルにより閉院。

名前の由来

創設者である藤二木近造が診療所を構える際に、「患者に対して常に慈しみの心を持ち、急を要する医療ニーズに迅速に対応することの重要性」を強く信じていたため、この名前を名付けたと言われている。

事件当時の病院院長



藤二木 千里 (1920~1989)

藤二木 千里 (1960年代院長)

1961年に院長に就任。表向きは革新的な医療技術の推進者として尊敬されていたが、裏では臓器売買や非倫理的な医療実験を行い、病院内の不正に関与していた。事件発覚後の1989年、院長室で不審死を遂げた。

病院関係者



藤二木 律子 (1949~?)

藤二木 律子 (1980年代副院長)

千里の娘。非倫理的な研究を院内で進めた。院内で権力を振りかざしていた。事件発覚後、失踪を遂げる。



津房 洋介 (1944~1989)

津房 洋介 (外科部長)

臓器売買の際の手術執刀者とされる。また治療行為と称して残虐な手術を行っていた。捜査の追及が及ぶ直前、手術中に突然メスで自殺した。

閉院・廃墟化とその影響

1. 閉院とその影響

1989年、一連のスキャンダルにより慈急総合病院は閉院を余儀なくされた。閉院は地域医療サービスに大きな影響を与え、多くの患者と職員が行き場を失った。また、病院の閉院は、医療倫理と法規制の重要性に関する国内外の議論を促した。

2. 文化的影響とメディア

慈急総合病院の廃墟は、地域における多くの都市伝説の源泉となった。臓器売買や非倫理的な実験に関する話から、亡くなった患者の霊が出るという話まで、多様な伝説が生まれた。また「医療の暗部：慈急総合病院の事件ファイル」というドキュメンタリー書籍が出版され、病院の歴史と内部の問題に深く迫った。

3. 廃墟化

閉院後、病院の建物は放置され、廃墟化した。この廃墟は、都市伝説の舞台として注目され、地元の若者やメディアの関心を集めた。